



## 誰もが暮らしやすい街づくりマップづくり活動報告

NPO法人 障がい者援護会 でんくる

ガイドマップを作ろう★実行委員会

はじめに関係者並びに作成にご協力いただいた皆様にこの場をおかりして深く御礼申し上げます。今回、私ども団体に「ガイドマップ」を作成する機会をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

このガイドマップの作成にあたり、「NPO法人 障がい者援護会 でんくる」では、でんくるの組織の中に実行委員会（ガイドマップを作ろう★実行委員会）を作り活動しました。主要メンバーは3人ですが多くのボランティアの方が作成に協力してくださいました。

ガイドマップは、「ユニバーサルな街づくりと題して、車いすガイドマップ」を作成しました。設定地区は、すべての地区は難しかったので、福岡市の城南区、中央区、東区に限定し作成しています。

6月に申請がおりまして、その後の7月より、計21回程の会議を重ね、作成までのプランを練ってまいりました。作成までのプランとしては以下の通りです。

### <作成プラン>

6月～7月：準備段階

7月：車いすで困っていることの見解交換、地区の設定、調査ポイントの検討  
調査場所の検討

8月：第一回調査実施、写真の選定、調査ポイントの整理

9月：第二回調査実施、写真の選定、調査ポイントの整理

10月：全体の構成案の作成、写真の選定、意見交換

11月：具体的な構成、写真と写真のコメントの整理、配布場所の検討

12月：全体の構成の見直し、エピソード、メッセージ、評価、注意十か条の作成

1月：全体の構成完成案の検討、はじめに、編集後記等の作成と確認

2月：校正

3月：完成

作成にあたり気をつけた点は、障害のある当事者、学生ボランティア、市民ボランティアの三者がそれぞれの立場からの視点や意見を出し、その一つひとつの視点や意見を大事にし、協力して仕上げたところです。誰か一人の意見を優先させるのではなく、一人が出した意見に対して議論を重ね、それぞれの意見を融合させた形となるように配慮しました。

また、できるだけ写真やロゴ、イラストなどを入れ、視覚に訴え、誰にでもわかりやすいように作成をしました。さらに、写真の一つひとつにコメントを入れ、どこに焦点をあてたのかも明確にしました。

他にも各区の紹介、評価できる点、その地区での古賀さんの危ないと感じたエピソードなどを盛り込み、親しみやすく、またイメージしやすいように仕上げています。

最後に「注意十か条」を作成し、車いすで街にでかける際の注意点を十か条にイラスト付きでわかりやすいようにまとめました。

完成したものは 500 部印刷をし、関係者と検討した配布場所に持参する形で配布をしています。主な配布先としては、福岡市内の当事者団体、障害者関連施設、福祉系の大学、専門学校、小学校などです。担当者に経緯を説明し、お渡ししています。

最後のまとめとしては、発行にあたって、編集後記でも述べておりますが、障がい者が地域で安全に安心して過ごせるようにと願って、日常生活の面でよく利用する地域の現状を調査し、ガイドマップとしてまとめました。

今回実行委員会では、何度も意見交換を重ね、調査活動を続けましたが、その中で学んだこと、気づいたことは、私たちが普段不自由なく使っている舗道や施設は、車いすを使う人にとっては危なかったり、使いづらかったりするということを改めて知ることができました。このぐらいの段差なら大丈夫だろうと思っていたところも、実際の場面をみると、車いすが大きく揺れたり、傾くなどして何度も危ないと感じることがありました。頭ではわかっているつもりでも、実際に話を聞いたり、一緒に歩いたりすることによって、はじめて同じ立場に立って考えその思いを共感し、理解できるのだと思います。

「誰もが暮らしやすいまちづくり」「ユニバーサルデザイン」などといわれていますが、まだまだお手伝いをしていただくことが多いのが実情です。実際に小さなところからでも変えていけるよう、色々な立場の人が出会い、気づかい、支えあう気持ちをもち協力することが大事だと思います。

私ども団体も今後も継続していろいろな当事者団体や政府機関への情報提供、政策提案の資料になるような活動を行っていきたいと思っています。

まだまだ多くのことを伝えきれていない面もありますが、これからも調査活動を続け、このガイドマップのメッセージが一人でも多くの方の心に届き、協力しあえる場がもっと増えていくようにと切に願ってまとめにしたいと思います。